

小学校の指導改善プラン（学校用） 麹町小学校

昨年度の「指導改善プラン」の検証（成果と課題）

○達成度調査の各教科の観点・領域において、区の平均正答率を上回った項目が昨年度よりも12項目増えた。

▲算数科において、「図形」「測定」「変化と関係」の領域は4～6年の全ての学年で区の平均正答率を上回ったが、「データの活用」の領域は全ての学年で区の平均正答率を下回った。

全国学力・学習状況調査、達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○「話すこと・聞くこと」の領域で区の平均正答率を0.4ポイント上回っている。 ▲「書くこと」の領域は、区の平均正答率を5.3ポイント下回っている。	○全ての観点・領域で全国の平均正答率を上回っている。 ▲「情報の扱い方」の単元で区の平均正答率を3.5ポイント下回っている。	○「書くこと」の領域で区の平均正答率を1.2ポイント上回っている。 ▲全ての観点で区の平均正答率を下回っている。
社会	○「短答式」の出題形式で区の平均正答率を0.9ポイント上回っている。 ▲全ての観点・領域で区の平均正答率を下回っている。	○全ての観点・領域で区の平均正答率を上回っている。 ▲「ごみの処理と利用」の単元で区の平均正答率を1.7ポイント下回っている。	○「日本の国土の地形や気候」の単元で区の平均正答率を1.6ポイント上回っている。 ▲全ての観点・領域で区の平均正答率を下回っている。
算数	○「測定」の領域で区の平均正答率を1.3ポイント上回っている。 ▲全ての観点で区の平均正答率を下回っている。	○全ての観点で区の平均正答率を上回っている。 ▲「データの活用」の領域で区の平均正答率を7.4ポイント下回っている。	○「思考・判断・表現」の観点は、区の平均正答率を1.5ポイント上回っている。 ▲「データの活用」の領域で区の平均正答率を2.1ポイント下回っている。
理科	○「磁石の性質」の単元は、全国の平均正答率を4.9ポイント上回っている。 ▲全ての観点・領域で区の平均正答率を下回っている。	○全ての観点・領域で区の平均正答率を上回っている。 ▲「天気の様子」の単元で区の平均正答率を5.0ポイント下回っている。	○「知識・技能」の観点で区の平均正答率を0.5ポイント上回っている。 ▲「思考・判断・表現」の観点は、区の平均正答率を2.3ポイント下回っている。

授業改善の方針

国語	・根拠となる叙述や資料を基に、自分の考えを整理して表現する言語活動を計画的に取り入れ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ・多様な文章や表現に触れる読書活動を充実させ、語彙力や読解力を高めるとともに、学習意欲の向上につなげる。
社会	・地図や統計資料、写真などを比較・関連付けながら考察する学習を充実させ、資料活用能力の育成を図る。 ・地域や日本の社会的事象を身近な生活と結び付けて考えさせ、社会参画への意識を高める。
算数	・問題解決の過程を図や式、言葉を用いて説明する活動を充実させ、論理的に考える力の育成を図る。 ・表やグラフなどのデータを活用して判断し、その根拠を説明する学習を通して統計的な見方を育てる。
理科	・観察や実験の結果を根拠として考察する活動を重視し、科学的に思考し表現する力を育成する。 ・問題発見から予想、実験、考察までの探究的な学習過程を大切に授業改善を進める。
音楽	・鑑賞で気付いた音楽の特徴を表現活動に生かす学習を充実させ、豊かな感性と表現力を育成する。 ・合唱や合奏など協働的な音楽活動を通して、互いを認め合いながら表現する力を高める。
図工	・友達との対話を通して発想や構想を広げ、自分らしい表現につなげる学習活動を充実させる。 ・表したい思いや意図を明確にし、材料や技法を工夫して表現する力の向上を図る。
家庭	・学習した知識や技能を家庭生活の中で活用する機会を設け、実践的な態度の育成を目指す。 ・家庭生活の課題を見付け、その解決方法を考え実践する学習活動を計画的に進める。
体育	・一人一人が達成可能な目標を設定し、振り返りを重ねながら主体的に運動へ取り組ませる。 ・仲間と協力して課題解決に取り組む学習活動を充実させ、協働する力を育成するとともに、達成感を感じられるようにする。
外国語	・意識調査において、英語学習に苦手意識をもつ児童の割合が全国平均を上回っていることから、導入段階において児童が安心して活動に参加できるコミュニケーション活動を取り入れ、英語に親しむ態度を育成する。 ・英語を使う目的や場面を明確にした活動を設定し、進んで伝え合う態度を育成する。 ・聞く・話す活動を中心に、読む・書く活動を関連付けながらコミュニケーション能力を高める。